

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『自立貢献』～夢をもち努力をおしまず感動を共有できる生徒～
 (具体目標)
 将来に夢を抱き、自ら学び続ける生徒を育てます。(知)
 挨拶・礼儀や社会のルールを重んじ、場に応じた行動がとれる生徒を育てます。(徳)
 自分や他の命を大切に、健康な心と体をつくる生徒を育てます。(体)
 地域を愛し、自らができることを実践する生徒を育てます。(公)
 積極的に挨拶をし、また多くの人とのコミュニケーションを大切にしながら、視野を広げようとする生徒を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

あらゆる教育活動を通して、自己有用感・自己肯定感を醸成して、集団への帰属意識を向上させ、問題発見・問題解決能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。

具体化した資質・能力

- 場面ごとに自己の課題を発見し、目標設定ができる能力。
- 自己の考えや意見を整理し他者へ伝えていく能力。
- 他者の意見を受け止め、互いを認める能力。

中期取組目標

○教職員一人ひとりが生徒とのふれあいを大切にし、お互いにコミュニケーションを図り、「チーム」として機能する活力ある学校づくりを目指します。
 ○育成すべき資質・能力を明確化し、「わかる授業」「楽しい授業」の展開を通して、深い学びを目指します。
 ○人権を尊重し、互いの良さを認め、「相手の立場になって考える」「相手へのいたわりや、優しい心を持つ」生徒を育てます。
 ○相談活動を充実させ、心身が健康な生徒の育成と安全な学校生活を目指します。
 ○学校運営協議会や学校評価を生かし、保護者や地域と協働した「地域とともに歩む」学校づくりを目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①育成すべき資質・能力を明確化し、研究授業や授業研究等を重ね、「わかる授業」「楽しい授業」を目指して工夫・検討を行う。 ②新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けて、最新のデータを活用して各教科の取組を推進する。 ③学習目標を明確にし、学習の過程や成果を適切に評価し、指導と評価の一体化を行う。
担当	学習指導係・教科会

学力向上に関わる本校の状況

国語
各学年とも文章の内容理解は一定程度できているが、複数の情報を関連付けて考えたり、自分の考えとしてまとめて表現したりする力に課題が見られる。

数学
計算などの基礎的な知識・技能は概ね定着しているが、分数計算や応用的な場面では課題が見られる。また、具体的な場面で式や図形の性質を活用し、考えを説明する思考・判断・表現の力が十分ではない。

英語
全体として知識・技能は概ね定着しており、特に「聞くこと」においてできている。一方で、「読むこと」「書くこと」や思考・判断・表現の力に課題があり、特に書く力の弱さが顕著である。

理科
基礎的な知識・技能は概ね定着しているが、分野や内容によってばらつきが見られる。一方で、思考・判断・表現や実験・グラフ・計算などを伴う問題に課題が見られる。

社会
基礎知識の定着は見られるが、文化理解や思考・判断力に課題がある。特に、出来事同士のつながりの整理や、知識を活用して考える力、長期的な定着が十分ではない。

今年度の目標

主体的に学習に取り組む態度の育成
基礎学力の定着

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し言葉と書き言葉の区別や語彙等の基本的な言語知識を定着させるために、テストや作文課題を活用し、反復・継続的な指導を行う。 ○情報を整理して簡潔に文章表現する力を身に付けさせるために、自分の意見を他者に説明する活動や、課題に対して作文で回答する内容に授業に積極的に取り込んでいく。 <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに既習の計算練習を行う時間をとり、学習の定着を図る。 ○課題についてクラスメイトとの話し合い活動を通して自分の考えを説明表現する場面を増やしていく。 <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Unit全体で子どもに身に付けさせる力を明確にし、基礎学力の定着を意識した単元計画、評価計画を立てる。 ○自らの目標を設定し、それに向けて振り返りを重ねて自律的に学習に向かう姿勢を育む。 <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度までに身に着けた問題解決の力などを活用し、基礎・基本事項の定着のために反復学習を行う。 ○見直しをもって学習に取り組む、既習事項を活かした新たな課題を考察する授業構造をつくる。 <p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着のため、プリント課題を行う。 ○授業の1時間の見直しをたてるため、単元の導入に映像や写真などの資料を活用して関心を高めるとともに、視覚的なアプローチで理解を深めさせる。 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身に付けた言語知識や表現技法を適切に使っているかを確認したり、論理の展開を意識したりしながら、様々な情報を利用して自分の考えを言語化(スピーチ・作文等)する力を養う。 <p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識して授業を行う。 ○必要に応じてICT機器を活用することで、空間における図形の理解を深めさせる。 <p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを大切に、自分の言いたいことを進んで表現し、伝わる楽しさを実感できる授業づくりを目指す。 <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然現象の課題について、自分の考えを表現したり、他と共有したりする場面を積極的に設け、予想や思考する力をつけられるよう指導する。 ○主体的に探求し、問題解決しようとする態度を養う。 <p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、クラスメイトとのコミュニケーションを通して考えを深め、論理的に文章で表現することに取り組む。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳指導の充実	①道徳の授業の充実をはかり、すべての教育活動において生徒ひとりひとりの人権や平和に対する意識を高める。 ②日々のあいさつを推奨し、他者を思いやる心の醸成を目指す。
担当	道徳指導係

豊かな心に関わる本校の状況

・学校行事に積極的かつ団結力のある取組ができ、クラスや学校のために前向きに活動する生徒が多い。
 ・あいさつを積極的に行う生徒がいる一方で、あいさつをされれば返すものの、自分からは進んでできない生徒も一定数いる。
 ・関係性のある人にはあいさつができるが、関係性のない人には積極的にいけぬ生徒が多い。
 ・他者との人間関係に自信をもてず、限られたコミュニティで過ごす生徒もいる。
 ・人権意識が高まり、「違いを認める態度」が育ちつつある。

今年度の目標

さまざまな経験を通して、人権といのちの安全の意識を高め、他者を思いやる心を育み、自分で深く考え行動する態度を養う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>「道徳科授業」の充実とコミュニケーションの基礎の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの全校道徳の授業で「立志式」を行い、自己を見つめて本年度の目標を定め、向上心をもち強い意志で取り組める環境を作る。 ・教科指導や特活指導の中で道徳的内容を取扱い、人間としての生き方、考え方を深める機会となるよう研修を行い、教材等の工夫を行う。 ・体育祭、校外行事・宿泊行事を通して、課題解決を図る姿勢の基礎を築き、仲間の良さに目を向けて協働することの大切さを知る。 ・コミュニケーションの基礎となる「あいさつ」を、全校で励行する。 ・「生活のきまり」を生徒達と共に見直すことで、人権意識を高める。 	<p>「体験活動」を通じたコミュニケーション能力と社会性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期の行事で築いた仲間との関係を、文化祭やレクリエーション活動への取組の中でさらに発展させ、他者を思いやる気持ちやコミュニケーション能力の育成を図る。 ・職場体験や職業講話など、地域社会との関わりの中で、社会性を向上させ、より善く生きようとする態度を身につけさせる。 ・小学校と連携した「あいさつ運動」をすることで、実践を通じて身につけた力を生かし続け、人権に対する理解をより深める。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育の充実	①感染症防止対策及び熱中症対策を継続し、教室や校内の環境調整や美化に努める。 ②生徒一人ひとりの思いに基づいて、委員会活動や保健体育科の授業、部活動の充実を図る。 ③外部機関と連携して、「食育」「性に関する教育」「薬物乱用防止教育」を推進し、健やかな成長を支援する。
担当	保健環境指導部・健やかな体委

健やかな体に関わる本校の状況

・基本的には生活リズムが身につけている。
 ・食生活に関しては、一部の生徒は朝食を摂らずに登校する生徒もいる。
 ・地域に外遊びができる空間は十分あるものの、塾に通っている子どもも多く、体を動かす時間を確保することが難しい状況である。
 ・多くの生徒が運動部に所属している。放課後はグラウンドや体育館等で運動に取り組む生徒は多い。
 ・休み時間は上校庭の開放をしており、利用する生徒が多い(鬼ごっこ、ボール遊び等)
 ・保健室の利用の内容として、心の不安定さから来室する子どもが多い。
 ・健康の保持増進に関しての興味関心、知識の定着が低い。

今年度の目標

心と体を一体としてとらえ、体調の管理が自らできるための知識の定着を図る。
 体力、健康の保持増進に向けて、自身の姿を見直し、改善方法を考え、実践する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>《体育科・保健体育科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業では、自身の体や心向きを合わせる時間の確保を行う。(保健、体づくり運動) ・課題解決できるように、学習カードで状況や考えをまとめられるようにする。(教員は単元内で3回に分けて確認を行い評価する) ・筋力、柔軟性の値が低いため、準備体操にトレーニング・ストレッチングなどコーディネーショントレーニングを取り入れ、3年間通した能力の向上を目指す。 ・体育祭では、生徒が中心となり、自ら考え、行動できる姿を目指し、行事を通して運動の楽しさや体を動かすことへの喜びを感じられるようにする。 ・保健の授業では、現状を把握させたらうで今後の生活に生かせる学びになるように振り返りが行えるようにする。 <p>《他教科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科では、生活に関わる基礎的な知識と技術を体験を通じて定着させるとともに、「食育」を通じて食の大切さを意識し、自分の課題を発見し追求する姿勢を育成する。 	<p>《体育科・保健体育科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業では、自身の体や心向きを合わせる時間の確保を行う。(保健、体づくり運動) ・課題解決できるように、学習カードで状況や考えをまとめられるようにする。(教員は3回に分けて確認を行い評価する) ・筋力、柔軟性の値が低いため、準備体操にトレーニング・ストレッチングなどコーディネーショントレーニングを取り入れ、3年間通した能力の向上を目指す。 ・保健の授業では、現状を把握させたらうで今後の生活に生かせる学びになるように振り返りが行えるようにする。 ・養護教諭と連携を図り、「食育」「性に関する教育」「薬物乱用防止」について学びを深められるようにする。 <p>《他教科での取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科では、生活に関わる基礎的な知識と技術を体験を通じて定着させるとともに、「食育」を通じて食の大切さを意識し、自分の課題を発見し追求する姿勢を育成する。 <p>《委員会との協力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会では、生徒の健康を委員会内でも共有し、生徒が主体となって活動できるようにする。 ・環境委員会では、教室や校内の環境整備を行うために、生徒が主体となって活動できるようにする。